
淀川水系 淀川左岸ブロック の環境面・景観面等について

1. 流域の将来像
2. 淀川左岸ブロック河川の特性
3. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容
 - (1) 水質
 - (2) 利水・生態系
 - (3) 河川空間利用・住民ニーズ
4. 河道改修
5. 維持管理

1. 流域の将来像

＜大阪府、枚方市、交野市、四條畷市、生駒市の将来像＞

●大阪府のビジョン（将来ビジョン大阪）

- 生物多様性が確保できる豊かな自然環境の保全
- 河川環境の改善等による水とみどりのネットワークの創造

●枚方市のビジョン（枚方市都市計画マスタープラン）

- 淀川の自然と東部の里山を結ぶ水と緑の回廊の保全・創造
- 自然巡回路や緑道の整備を行い、緑のネットワークの創造
- 河川やため池を活用し、自然とふれあう親水空間の整備

●交野市のビジョン（交野市都市計画マスタープラン）

- 緑豊かな自然環境の保全
- 天野川を中心として、緑道、公園・緑地や公共施設などの有機的なネットワークを構築
- 河川改修については、水と親しむことのできる環境整備

●四條畷市のビジョン（四條畷市都市計画マスタープラン）

- 北生駒山地の豊かな自然環境の保全・活用
- 緑と水と歴史をいかしたうるおいのある町並みの形成
- 環境共生のまちづくり

●生駒市のビジョン（生駒市都市計画マスタープラン）

- 良好な自然環境の保全
- うるおいある水辺環境の保全・形成
- 景観に配慮した公共事業の実施

2. 淀川左岸ブロック河川の特性

- 淀川左岸に合流する天野川、穂谷川、船橋川の3つの一級河川流域で構成され、流域は枚方市、交野市、四條畷市、大東市、東大阪市及び生駒市の6市にまたがる。
- 各河川は全て淀川に合流しており、河口部では枚方市の市街地の中で、淀川の河川敷と合わせて広い河川空間を形成している。

【各河川の特徴】

①天野川

- 下流（淀川合流～八幡橋）
⇒枚方市の中心街を流れる河川
- 中流（八幡橋～羽衣橋）
⇒岩の露出した渓流景観を呈した河川
- 上流（羽衣橋～府管理区間上流端）
⇒田園地帯を流れる小河川

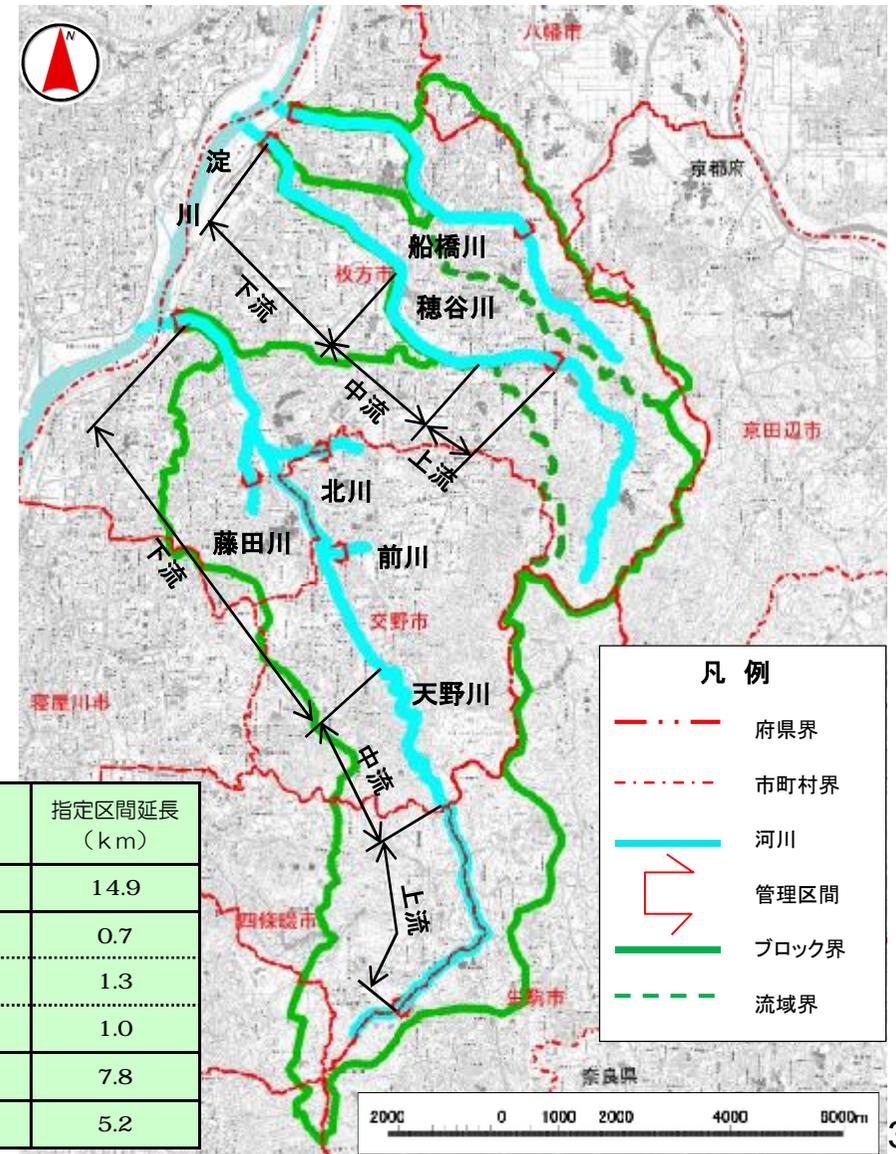
②穂谷川

- 下流（淀川合流～穂谷川新橋）
⇒枚方市の中心街を流れる河川
- 中流（穂谷川新橋～満穂橋）
⇒周辺の自然環境にとけ込んだ河川
- 上流（満穂橋～府管理区間上流端）
⇒田園地帯を流れる小河川

③船橋川

⇒市街地、田園地帯を流れる河川

水系名	流域面積 (km ²)	指定区間延長 (km)
天野川	51.3	14.9
・前川	4.5	0.7
・北川	7.4	1.3
・藤田川	2.7	1.0
穂谷川	14.4	7.8
船橋川	8.7	5.2



2. 淀川左岸ブロック流域の特性

●歴史・文化

- 淀川左岸ブロックは、古くから淀川の水運における中継港であった枚方や京街道をはじめとする旧街道の交通の要衝として栄え、多くの歴史文化遺産が残されている。
- 天野川では、明治時代に全国に先駆け砂防事業が行われており、当時の砂防技術の高さを示す石積みの落差工や堰堤が残されている。

歴史・文化遺産一覧表

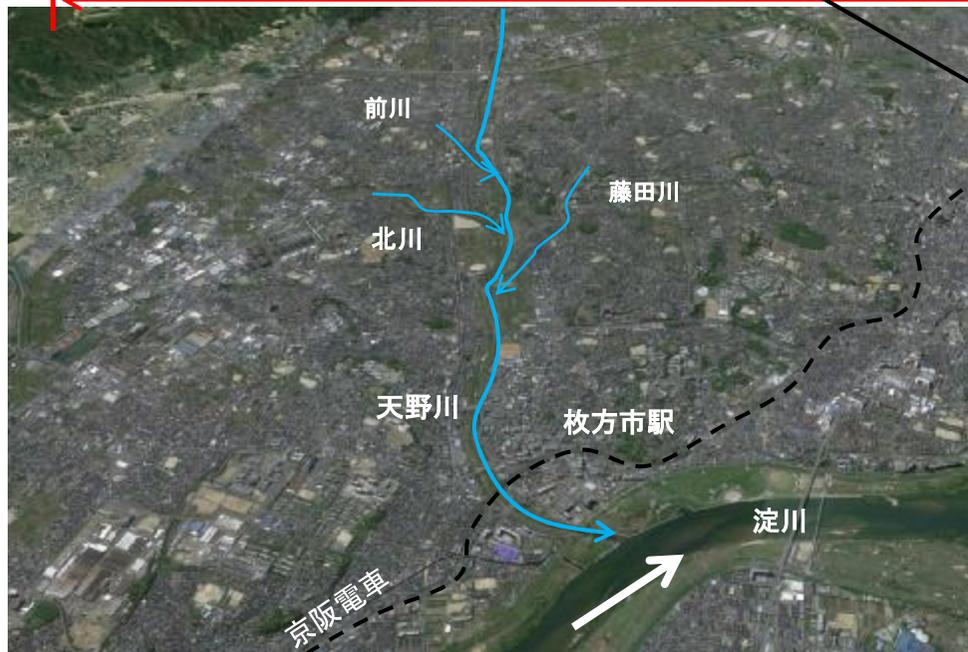
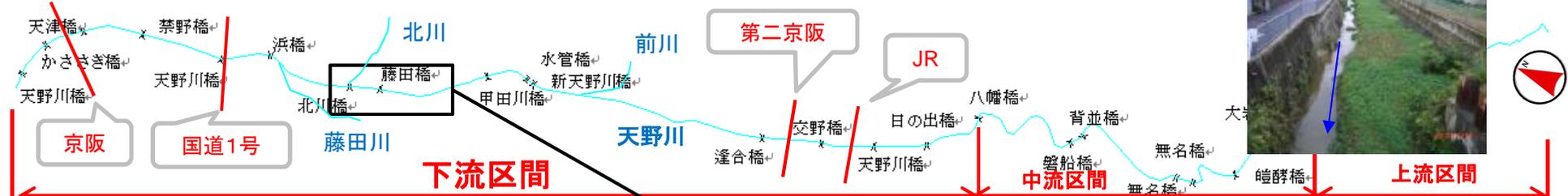
指定区分	指定名称	位置図番号	指定区分	指定名称	位置図番号
枚方市	国指定	片笠神社本殿	交野市	国指定	北田家住宅
		牧野車塚古墳			山添家住宅
		百済寺跡			木造阿弥陀如来立像(蓮花寺)
		祭野車塚古墳			木造薬師如来(獅子窟寺)
		厳島神社末社春日神社本殿		府指定	弘安地藏菩薩
	府指定	片笠神社東門・南門・石造灯籠	市指定	薬師如来坐像・千体仏(薬師寺)	
		枚方田中邸のむく		十一面観音立像(星田寺)	
		田口山弥生時代遺跡	指定無し	東高野街道	
		正俊寺石造十三重塔		明遍寺	
		伝王仁墓		長宝寺後(郡津神社)	
		旧田中家主屋・鋳物工場		私部城跡	
	釈尊寺木造釈迦如来立像		機物神社		
市指定	廃渚院観音寺鐘楼・鐘梵	12		神宮寺遺跡	
	和田寺木造薬師如来立像	13		開元寺跡	
	意賀美神社算額	14		岩倉開元寺跡	
	清泰寺木造普賢菩薩坐像・文殊菩薩坐像	15		寺古墳群	
	銅造誕生釈迦仏立像	16		東車塚古墳	
	三之宮神社の湯釜	17		森古墳群	
	大聖寺薬師堂内厨子	18		須弥寺	
	村野村高礼場	19		磐船神社	
				星田妙見宮(小松神社)	
				徳川家康陣営跡	
				尺治川・天野川砂防堰堤	
四條畷市	府指定	住吉神社の石槽	43		
	指定無し	田原城跡	44		



2. 淀川左岸ブロック河川の特徴(天野川)

○下流区間

- 北川合流点付近より下流区間は築堤となっており、川幅は約50m、河床勾配は1/620~1/820程度で、ブロック積護岸の複断面形状である。
- 大部分が市街化した平野部を貫流して、淀川に合流している。
- 下流部分は緩やかな流れであり、瀬は見られない。河床材料は砂が主体となっている。
- 京阪枚方市駅と隣接することもあり、周辺に枚方市役所、税務署、郵便局、警察署、保健所、府民センター等が集中する官公庁街があり、枚方市の中心的な市街地となっている。
- 天野川支川前川は交野市市街地の平野部を流れ、川幅は4~5m程度、ブロック積み護岸の単断面で河床勾配は約1/300と緩やかな流れで瀬は見られない。河床材料は砂が主体となっている。



航空写真: Google earthより

2. 淀川左岸ブロック河川の特徴(天野川)

○中流区間

- 山付区間となっており、川幅は約20m、河床勾配は1/55～1/150程度で、一部の水衝部に石積みやブロック積護岸で整備されている。
- 小規模な瀬がところどころ見られる。河床材料は砂が主体的であるが、岩や礫なども多く見られる。
- 川沿いにはシイ、カシ等の照葉樹林や竹林が多い。
- 山間部を蛇行しながら流下し、岩の露出した溪流景観を呈している。
- 磐船峡には、2001年に完成した最大径12mトンネル放水路がある。



区間の特徴

渓谷には、ツルコシなどの植物がみられる。土質はコンクリート団地の地層が多い。
 動物：アサギやハクセキレイ、カラスなどの鳥類がみられる。
 河川施設：交野川トンネルは清流となっており、周囲は緑が多いが、富田や津の多い場所もある。

航空写真: Google earthより

2. 淀川左岸ブロック河川の特徴(天野川)

○上流区間

- 掘込区間となっており、川幅は約7m、河床勾配は1/130程度で、ブロック積護岸で整備されている。
- 上流域は緩やかな流れであり、瀬は見られない。河床材料は砂と礫が主体的である。
- 生駒山地を遠景とした田園風景の中を緩やかに蛇行しながら流下している。



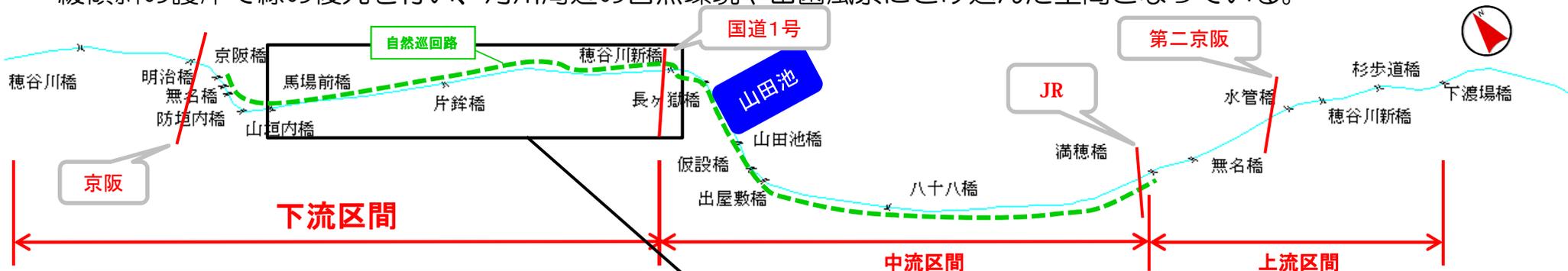
2. 淀川左岸ブロック河川の特徴(穂谷川)

○下流区間

- ・築堤区間が多く、川幅は約20~30m、河床勾配は1/250~1/340程度である。
- ・大部分が市街化した平野部を貫流し淀川に合流し、ブロック積護岸で整備されている。
- ・緩やかな流れであり、瀬は見られない。河床材料は砂が主体的である。
- ・沿川は自然巡回路が整備されており、憩いの空間として利用されている。
- ・緩傾斜の護岸で緑の復元を行い、河川周辺の自然環境や田園風景にとけ込んだ空間となっている。



写真出典:「枚方市景観基本計画」より



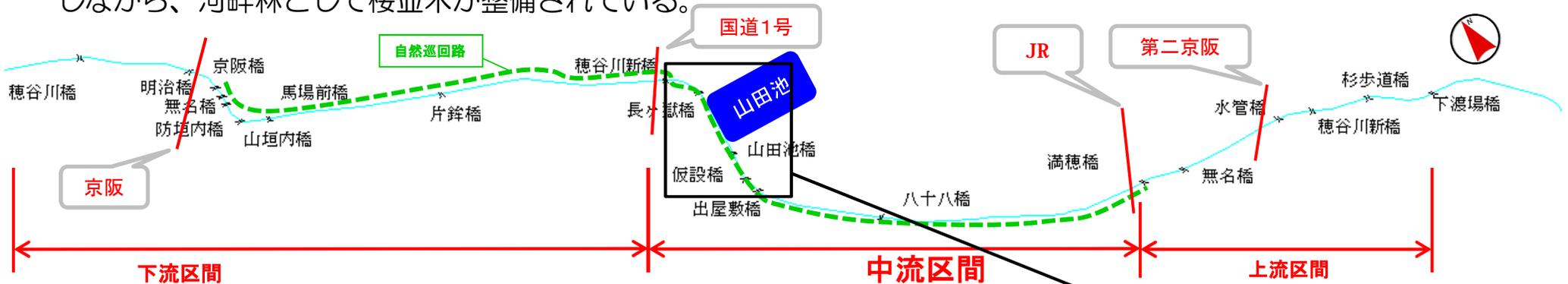
航空写真: Google earthより



2. 淀川左岸ブロック河川の特徴(穂谷川)

○中流区間

- 大部分が築堤区間となっており、川幅は約20m、河床勾配は1/220程度でブロック積護岸で整備されている。
- 大部分が市街化した平野部を貫流している。
- 全体に緩やかな流れであり、瀬は見られない。河床材料は砂が主体的である。
- 堤防沿いは枚方市の「穂谷川自然巡回路」に指定されており、山田池公園周辺など、公園管理者、枚方市と協力しながら、河畔林として桜並木が整備されている。



航空写真: Google earthより



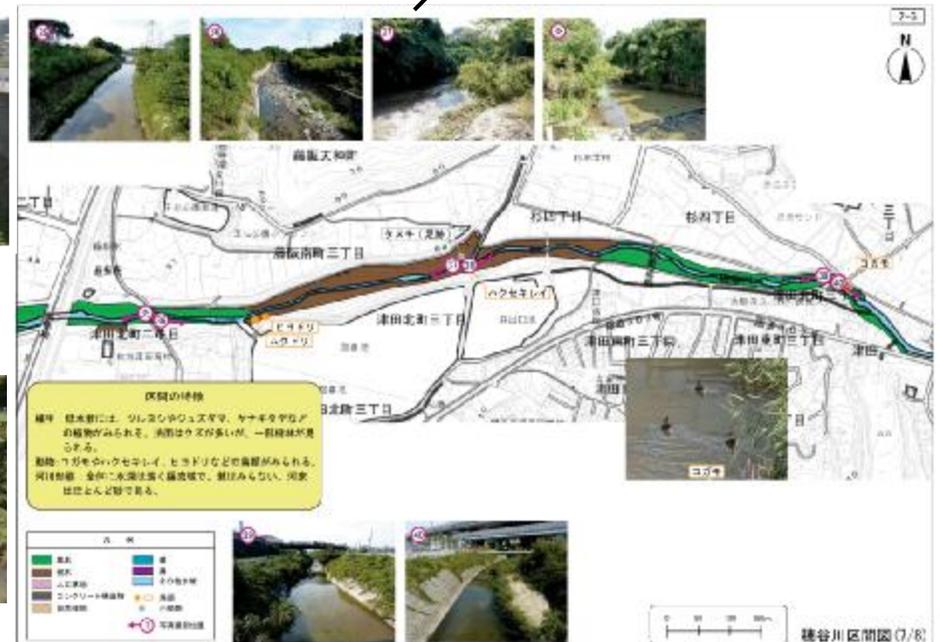
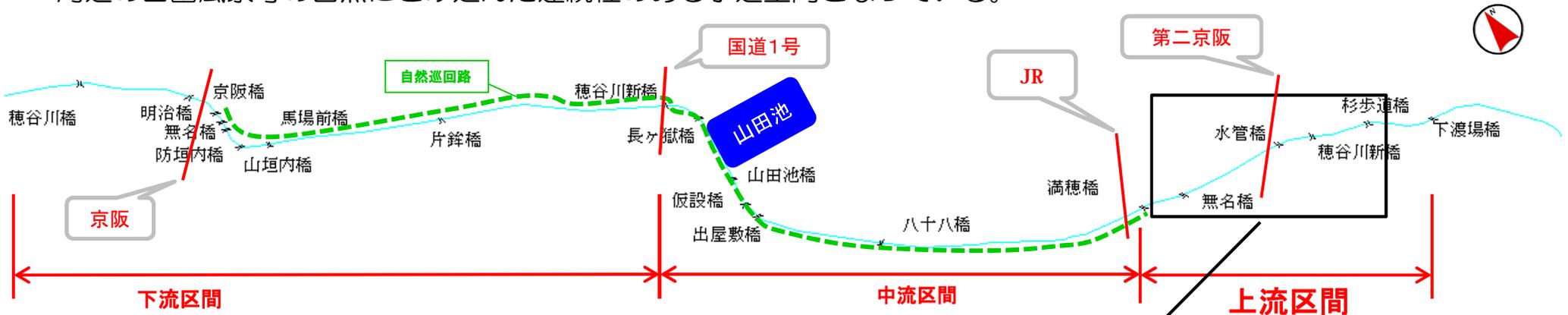
写真出典:「枚方市景観基本計画」より



2. 淀川左岸ブロック河川の特徴(穂谷川)

○上流区間

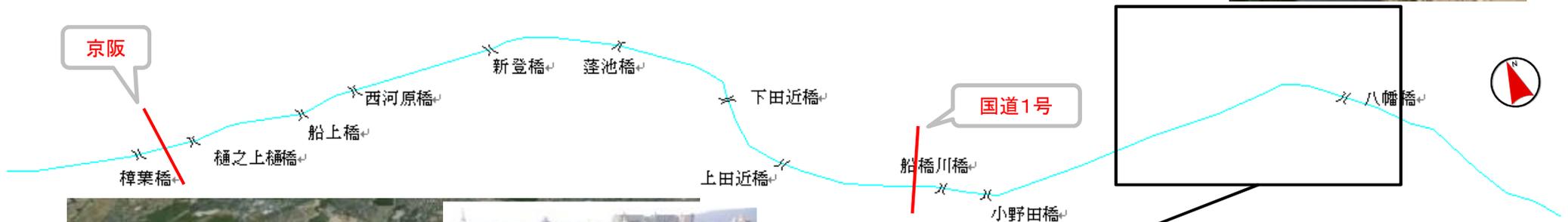
- ・ 築堤・掘込区間が混在しており、川幅は約16m、河床勾配は1/200程度でブロック積護岸で整備されている。
- ・ 全体に緩流域であり、瀬は見られない。河床材料は砂が主体的である。
- ・ 周辺の田園風景等の自然にとけ込んだ連続性のある水辺空間となっている。



航空写真: Google earthより

2. 淀川左岸ブロック河川の特徴(船橋川)

- 国道1号より下流は築堤、上流は掘込区間となっている。
- 川幅は、約20m~50mで河床勾配は1/350~1/180程度となっている。
- 大部分が市街化した平野部を貫流し淀川に合流する。
- 全体に水深は浅く緩流域であり、瀬は見られない。河床材料は砂が主体的である。
- 最下流部を除き、自然巡回路が整備されており、憩いの空間として親しまれている。
- 中、上流部には田畑や集合住宅が連なり、ブロック張護岸となっている。

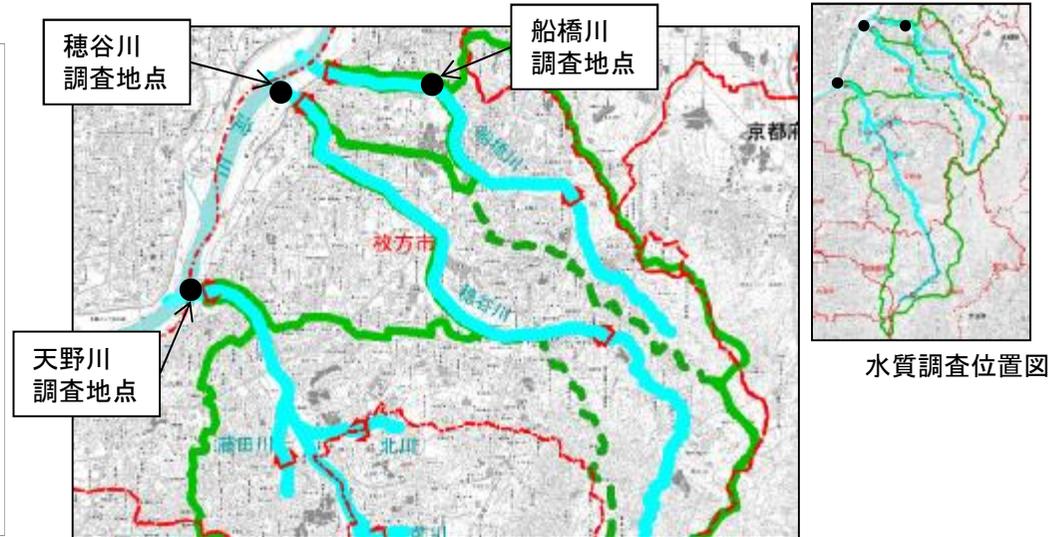
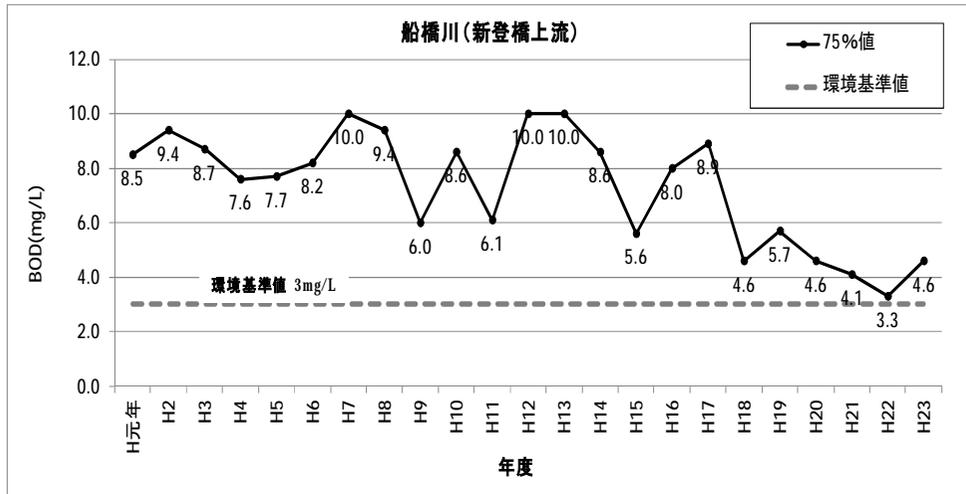


航空写真: Google earthより

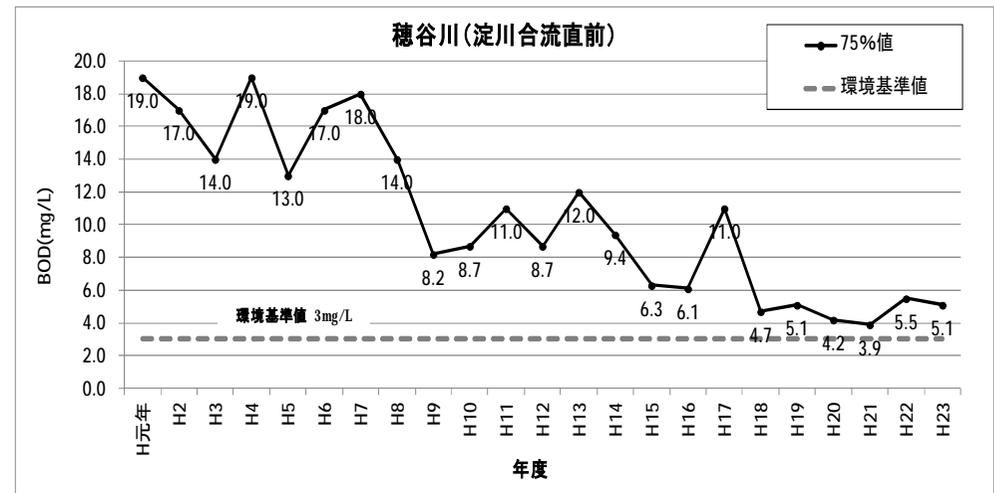
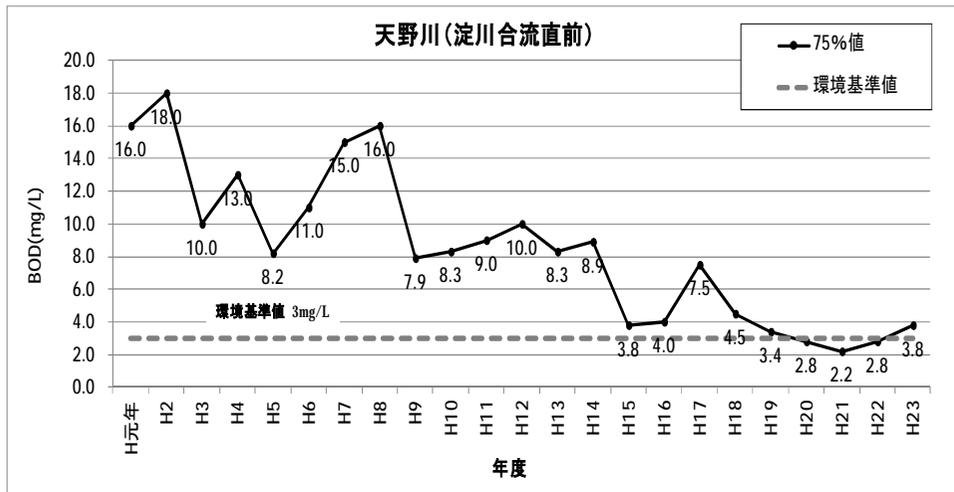
3. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容【(1)水質】

●水質

- 3河川とも、環境基準（B類型 BOD 3mg/L）が指定されている。
- 近年、3河川とも水質は改善傾向にあるものの、環境基準（B類型 BOD 3mg/L）は満足していない。



水質調査位置図(拡大図)

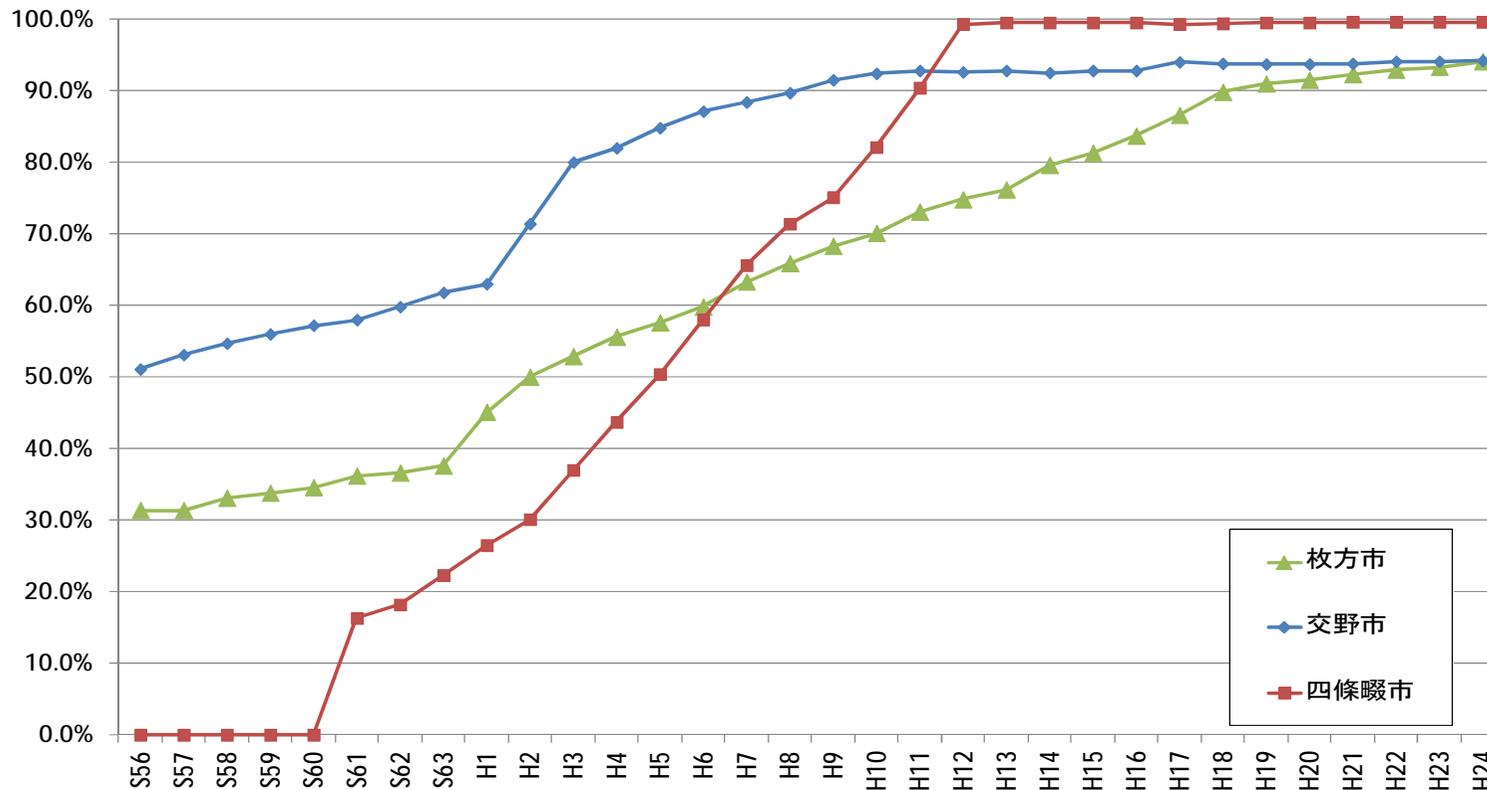


出典：大阪府HP「大阪府域河川等水質調査結果」

3. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容【(1)水質】

●下水道普及率

- 平成24年度末現在の下水道普及率は、枚方市94.1%、交野市94.2%、四條畷市99.6%となっている。3河川の流域に支配的な枚方市の下水道普及率は、近年6ケ年は鈍化しているが、平成年間は18年まで約3%/年の伸び率である。
- 水洗化率は上昇傾向にあり、平成24年度末現在は、枚方市96.2%、交野市98.0%、四條畷市98.0%と高水準である。



※下水道普及率＝下水道整備人口/行政人口

※水洗化率＝水洗化人口/下水道整備人口

※ブロック内には上記3市の他、生駒市、東大阪市、大東市が含まれるが、天野川の最上流の限定された山地区域であり、整理対象外としている

水系名	流域内市
天野川	枚方市、交野市 四條畷市、生駒市
・前川	交野市
・北川	枚方市
・藤田川	枚方市
穂谷川	枚方市
船橋川	枚方市

3. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容【(1)水質】

水質から見た課題

○水質は、環境基準B類型を基準値としており、比較的、良好な水質であるが、3河川とも環境基準が未達成であり、今後も水質の改善が必要。

目標

○環境基準の達成を目指す。

実施

- 地域で活発に行われているアドプト活動、美化運動において、流域市による下水道整備・接続の促進などについて、市関係機関や地域住民とともに、未処理生活雑排水の流入及びゴミを削減するための意識啓発を行う。
- 河川改修時及び老朽化護岸改修時においては、自然の浄化作用を回復させる形状を検討する。

3. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容【(2)利水・生態系】

●水利用

- ・流域内の河川水は、農業用水として取水され利用されている。
- ・穂谷川では、国道1号より上流において、多数、取水されている。

農業用水一覧表

河川名	NO	名称	許可・慣行	最大取水量 (m ³ /s)	堰高 (m)	魚道の有無
天野川	1	天野川左岸	許可	0.025	1.03	無
	2	向井川入口	慣行	0.080	0.60	無
	3	下加賀田取水口	慣行	0.010	1.00	無
	4	天野川取水井	慣行	0.010	-	-
	5	カズラ井堰	慣行	0.050	-	-
	6	芝之後堰	慣行	0.050	-	-
穂谷川	7	日置河原井堰	慣行	0.020	0.70	無
	8	片鉾水門	慣行	0.070	3.00	無
	9	通称水門	慣行	0.010	1.28	無
	10	地蔵池伏越樋	慣行	0.040	1.10	無
	11	中宮大池取水樋門	慣行	0.130	1.85	無
	12	大峰取水樋門	慣行	0.050	2.10	無
	13	野村穂谷川取水用水	慣行	0.030	1.00	無
	14	藤阪水門	慣行	0.150	1.77	無
	15	穂谷川用水樋	慣行	0.030	3.14	無
	16	惣喜池取入堰	慣行	0.130	1.28	無
	17	杉取入堰	慣行	0.020	1.28	無
	18	仏所井堰	慣行	0.030	1.42	無
船橋川	19	五井の池取入堰	慣行	0.250	0.71	無
	20	森池取入堰	慣行	0.240	0.71	無
	21	ゴロゴロ樋	慣行	0.070	0.95	無
	22	新大池取入堰	慣行	0.480	0.60	無
八田川 (船橋川支川)	23	榑池取入堰	慣行	0.370	-	-
	24	長尾大池取入堰	慣行	0.680	-	-
	25	長尾大池下取入堰	慣行	0.680	-	-



取水位置図

3. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容【(2)利水・生態系】

●魚類

- ・全川を通じて、府域で広く見られる魚が確認されている。
- ・全川とも、比較的的自然環境が残った川に見られる魚が確認されている。
- ・天野川下流に位置する新天野川橋下流でアユの遡上が確認されている。

魚類の生息状況表(平成24年調査結果)

	天野川			穂谷川			船橋川
	下流	中流	上流	下流	中流	上流	
種数	14 (9)※	5 (12)※	8 (7)※	7 (8)※	3 (4)※	2 (4)※	8 (9)※
大阪府 RDB記載種	ドンコ		タモロコ ・ カマツカ	ドンコ			タモロコ・メダカ
	タモロコ・カマツカ ・ドジョウ・メダカ	カワムツ	ドジョウ ・ メダカ	タモロコ・ドジョウ		メダカ	ドジョウ・ ドンコ
その他 主な種	オイカワ・モツゴ・ヌマムツ			オイカワ・モツゴ ・コイ・ギンブナ	-	-	モツゴ・ギンブナ タイリクバラタナゴ・ タウナギ
	コイ		-				
	ニゴイ・コウライニゴイ ・ギンブナ・アユ ・ナマズ・ブルーギル	-					



※()の数値は2006年(H18)の結果
(調査方法が異なる)

写真出典:「原色淡水魚類検索図鑑」発行 北隆館
「川の生物事典」発行 山海堂

3. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容【(2)利水・生態系】

●底生動物

- ・全川を通じて、府域で広く見られる底生動物が確認されている。
- ・天野川は、他の2河川に比べ、大阪府RDB記載種が多く見られる。
- ・全川とも、外来種の出現が確認されている。

底生動物の生息状況表(平成24年調査結果)

	天野川			穂谷川			船橋川
	下流	中流	上流	下流	中流	上流	
種数	48 (27)※	61 (20)※	46 (21)※	38 (9)※	34 (15)※	49 (18)※	45 (15)※
大阪府RDB記載種	ヒラモノアラガイ	-	カワニナ、チリメンカワニナ、ヒラモノアラガイ	-	-	カワニナ	-
外来種	アメリカナミウズムシ			アメリカザリガニ			アメリカザリガニ、アメリカツノウズムシ、サカマキガイ、スクミリンゴガイ、フロリダミズヨコエビ
	アメリカツノウズムシ、アメリカザリガニ、サカマキガイ、フロリダミズヨコエビ	-	アメリカザリガニ、サカマキガイ	-	サカマキガイ	アメリカツノウズムシ、アメリカナミウズムシ、フロリダミズヨコエビ	



※()の数値は2006年(H18)の結果

3. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容【(2)利水・生態系】

●流況

- 各河川における流況は以下のとおりである。

河川名	流域面積 (km ²)	流量 (m ³ /s) 【平均】	比流量 (m ³ /s/km ²)	観測年
天野川 (禁野橋)	51.3	0.37~0.96 【0.564】	0.01	H17.7.25~ H18.1.18
穂谷川 (山垣内橋)	14.4	0.09~1.00 【0.488】	0.03	H19.9.17~ H19.12.11
船橋川 (西河原橋)	8.7	0.0~1.32 【0.426】	0.05	H21.8.25~ H12.12.22

●渇水状況

- 穂谷川、船橋川において、灌漑期に瀬切れしている箇所が見られるが、近年、渇水被害は報告されていない。



●縦断的な連続性

- 各河川における落差工の設置状況は右の通りで、魚道が整備されている落差工も多少見られるが、高低差の大きい落差工等も多く、水生生物の移動が困難な状況となっている。

河川名 (区間)	落差工数	魚道有落差工数	落差高1m以上数	備考
天野川 (淀川合流点~日の出橋)	17	2	10	魚道は最下流 2箇所を設置
穂谷川 (淀川合流点~上渡場橋)	31	0	13	—
船橋川 (淀川合流点~八幡橋)	66	7	10	国道1号橋付近より上流に点在



落差工 (魚道なし)



落差工 (魚道あり)

3. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容【(2)利水・生態系】

利水・生態系から見た現状・課題

- 3河川とも、堰や落差工による縦断的な不連続性が存在しており、回遊性の魚類にとって、生息に厳しい河川となっている。
- 穂谷川、船橋川において、灌漑期に瀬切れが見られる。
- 河川改修によって生物の生息環境が変化する可能性がある。

目標

- 各河川において、堰や落差工による縦断的な不連続性を解消する。
天野川 ⇒回遊性の魚類の生息に配慮する。
- 現状の自然環境の維持、回復を図る。
穂谷川、船橋川 ⇒流水の正常な機能の維持に努める。

実施

- 改修や維持補修の機会に合わせて、魚道の設置等により不連続性の解消に努める。
- 農業関係機関と連携し、農業取水施設等の機能維持を図りつつ、現状の利用実態状況を把握し、適正かつ効率的な水利用に努める。
- 自然環境の維持や回復、身近な水辺づくりや河川景観づくりに重点を置く。

3. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

【(3)河川空間利用】

●空間利用

- ・3河川とも、数多くの市民団体が存在し、地元の環境保全グループによる水生生物観察会や清掃活動等が行われている。
- ・市民と連携しながら、堤防への桜（ソメイヨシノや里桜など）の植樹、高水敷等に設置された芝生広場や親水公園を利用した河川愛護活動が行われている。

河川名	名称・団体名	実施場所
天野川	アドプト・リバーNALC 天野川	かささぎ橋～天野川新橋
	アドプト・リバー 西禁野	かささぎ橋～天津橋
	アドプト・リバー 天野川を美しくする会	星のブランコ駐車場～逢合橋
	アドプト・リバー 宮乃阪	天津橋～禁野橋
	アドプト・リバー 星の町	天野川新橋～浜橋
	アドプト・リバー&ロード みんなの会	新天野川橋～上流川約100m地点
	アドプト・リバー 天野川を清流にする会	浜橋～藤田川合流（上流三角地帯）
	アドプト・リバー わいず倶楽部枚方	天津橋～天野新橋
	アドプト・リバー 天野川桃源郷	戎川～羽衣橋
穂谷川	アドプト・リバー 津田北町	満穂橋～津田北町1丁目
	アドプト・リバー 穂谷川ひまわりの会	穂谷川橋～片鉾橋
	アドプト・リバー 牧野阪	京阪牧野橋～馬場前橋
船橋川	アドプト・リバー めいしゃ船橋川	船上橋～新登橋
	アドプト・リバー 西船橋	西河原橋～樋之上京阪鉄橋
	アドプト・リバー 北山	小野田橋～ぼえむ橋
	アドプト・リバー&ロード 南船橋第3	新登橋～下流川へ約350m



天野川の清掃活動状況
写真出典:「アドプト・リバーNALC」JHP より



穂谷川の桜と菜の花
写真出典:「枚方市景観基本計画」より

3. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容 【(3)河川空間利用】

●河川の状況

【天野川】

- ・府民の森・ほしだ園地の他、川沿いにある交流拠点と連携した水辺プラザ等が水辺空間として利用されている。
- ・3河川の内、市民団体の活動が多く、親水施設が整備されている。

【穂谷川】

- ・中下流部において、川沿いに自然巡回路が整備されている。
- ・中流部には山田池公園があり、豊かな自然環境となっている。

【船橋川】

- ・中流部において、川沿いに自然巡回路が整備されている。



天野川水辺プラザ



山田池公園



自然巡回路
(穂谷川、船橋川)

写真出典:「枚方市景観基本計画」より

3. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容 【(3)景観、河川空間利用】

河川空間利用を踏まえての課題

- 天野川をはじめ市民団体が数多く活動しているが、水辺へのアクセスが困難な箇所も見られる。
- 穂谷川については、河川改修箇所における周辺環境との調和。

目標

- 一般府民の河川利用の促進による環境意識の啓発。
- 周辺環境との調和、利用状況を考慮した河川整備。

実施

- 市民団体等との一層の連携による河川利用活動、維持管理の促進。
- 穂谷川については、市などの関係機関と調整し、自然巡回路や山田池公園などのレクリエーション施設、自然環境と調和した整備を進める。

4. 河道改修

●当面の治水目標

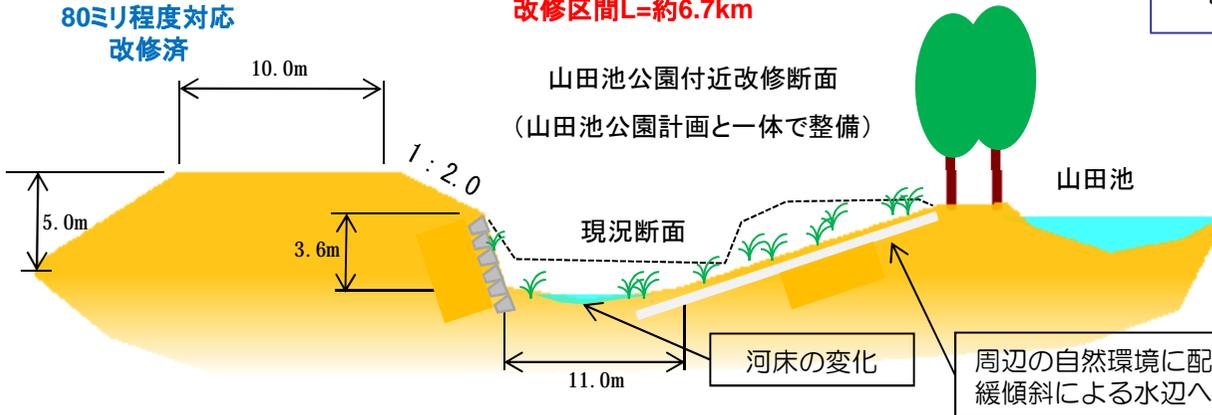
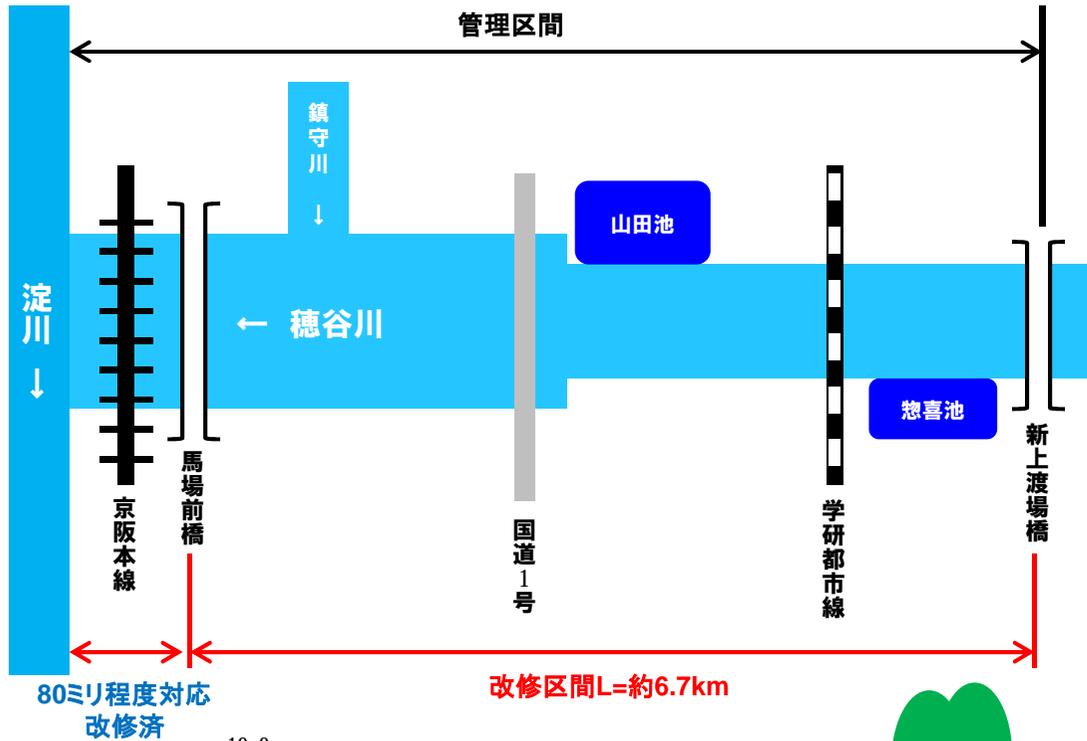
- 天野川、北川、藤田川、船橋川では、現況河道において時間雨量65ミリ、80ミリ程度の降雨でも危険度Ⅱ、Ⅲの被害が発生しないため、現状維持とする。
- 前川、穂谷川では、50ミリ対策河道において時間雨量65ミリ、80ミリ程度の降雨でも危険度Ⅱ、Ⅲの被害が発生する。
- これら2河川については、65ミリ対策および80ミリ対策の治水手法案を抽出し、B-C（効果-費用）を算定し、当面の治水目標および治水手法を設定。

水系名	当面の治水目標	備考
天野川	現状維持	平成23年度第8回 河川整備委員会で審議済み
・前川	時間雨量65ミリ程度対応とし、 治水手法は河道改修（河床掘削）	平成23年度第10回 河川整備委員会で審議済み
・北川	現状維持	平成25年度第3回 河川整備委員会で審議済み
・藤田川	現状維持	平成25年度第3回 河川整備委員会で審議済み
穂谷川	時間雨量80ミリ程度対応とし、 治水手法は河道改修（河床掘削）	平成25年度第5回 河川整備委員会で審議済み
船橋川	現状維持	平成25年度第3回 河川整備委員会で審議済み

4. 河道改修箇所の課題・目標・実施内容

●穂谷川

- ・治水手法：河道改修
- ・治水目標：80ミリ程度対策
- ・山田池公園周辺は公園計画と一体整備



実施

- 河床に変化をもたせる。(河床を平にせず、自然なみお筋の形成を助けるため、工事段階で将来を想定した形状に仕上げる。)
- 関係機関と調整し、自然巡回路や山田池公園などのレクリエーション施設と自然環境の一体的な整備を進める。
- 周辺の自然環境に配慮した護岸材料の選定。
- 法面を緩傾斜とし、水辺へのアクセスを確保。

河道改修における景観・自然環境面での課題

- 河床掘削及び河道拡幅における自然環境への配慮。

目標

- 現状の自然環境に可能な限り近づける。(瀬・淵等)
- 山田池公園を中心とした周辺の自然環境が調和した河川空間の形成。



5. 維持管理

●治水事業の沿革

○天野川

- ・昭和42年7月北摂豪雨を契機に、昭和44年に全体計画策定、改修実施
- ・昭和63年3月に関西文化学術研究都市建設計画（田原地区）策定

○穂谷川

- ・昭和47年9月台風24号を契機に、昭和55年に全体計画策定、改修実施
- ・昭和63年3月に関西文化学術研究都市建設計画（氷室・津田地区）策定

○船橋川

- ・昭和30年代中頃計画策定、昭和30年代後半から昭和50年代前半にかけて改修実施

●構造物の老朽化

- ・護岸等の構造物の設置後30年以上が経過し、老朽化が目立つようになってきている。

●洗掘および堆積部の発生

- ・構造物周辺および合流点付近、水衝部の洗掘が見られる。
- ・床止め工間（直線部）の洗掘、堆積が見られる。

船橋川 船上橋付近



船橋川 京阪本線付近



穂谷川 馬場前橋付近



護岸ブロックの損傷、開き

土砂堆積

5. 維持管理面から見た課題・目標・実施内容

維持管理における課題

- 護岸の設置後30年以上が経過し、老朽化が進んでおり、出水の際に護岸が損傷するおそれが高まっている。（船橋川では改修開始より50年を経過）
- 局所的な洗掘による、被災のおそれ。
- 土砂堆積による河積阻害。

目標

- 河川の特長や施設の劣化状況を踏まえつつ、計画的な維持管理を行い、災害の発生を未然に防ぐ。
- 河川の有する多面的な機能を十分に発揮させる様、適切な管理を行う。

実施

- 老朽化護岸対策について、施設の損傷状況に合わせ、地先の危険度や土地利用状況などを考慮し、危険度の高いところから計画的に実施。
実施にあたっては、点検結果やこれまで蓄積したデータをもとに、河川特性や護岸構造などを踏まえた箇所毎に原因分析を行い、長寿命化に向けた対策に繋げていく。
- 許可工作物に対しても、良好な保全が図れるよう指導を徹底していく。
- 生態系及び周辺の自然環境に配慮しながら堆積土砂の撤去等を行うことで、必要な河積を確保し、機能を維持する。
（例：天野川のように河床幅の広い河川では滯筋を残しつつ堆積土砂の除去を実施）

平成25年11月11日(月)に配布した資料に誤りがありましたので、修正したものを掲載しております

資料番号	修正箇所	修正前	修正後
資料3-2	6 ページ	・磐船峡には、 <u>1997</u> 年に完成した最大径12mトンネル放水路がある。	・磐船峡には、 <u>2001</u> 年に完成した最大径12mトンネル放水路がある。